

チャオ・ベトナム

J A P A V I E T N A M 会 報

NO.56

発行者：ジャパ・ベトナム事務局 発行日：2018年10月25日

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| ◆ベトナムの子供らしさの姿・・・・・・・・・・1 | ◆北部の支援先を訪問して・・・・・・・・・・5 |
| ◆ジャパ・ベトナムの若者の参画・・・・・・・・・・2 | ◆メコンデルタの支援先を訪問して・・・・・・6 |
| ◆ジャパ・ベトナムの支援先を訪問して考えたこと・・3 | ◆寄付者一覧、お知らせ・・・・・・・・・・7 |
| ◆ベトナムの若者の現状と課題・・・・・・・・・・3 | ◆会計報告・・・・・・・・・・8 |
| ◆ホーチミンの活動拠点について・・・・・・・・・・4 | |

ベトナムの子供らしさの姿

安藤 勇



東京の足立区で長いアパート暮らしをしていた時に、学校から帰った男の子たちは友達の家を訪れ、玄関元から彼らを呼んで、「何何君、一緒に遊ぼう!」と彼らの呼び声が町中で聞こえた。現在、私は外国籍の方々に日本語を教えるある塾のボランティアとして、大人も子供も日本語を習いに来ている。小学生の子どもは玄関から入ると走って階段を上り、静かに勉強を始めたと思ったら、レッスンの時間になっているのに、家中を走り回っている。結局、遊ぶのは子どもの自然な姿だ。

ベトナムで発見した子供の優しさ

この夏のジャパ・ベトナムのツアーの時、最初に訪れたプログラムは北部にある Bac Ninh 省のプロジェクトだった。そこで、私たちは HIV 感染病の母子家庭のグループの様々な活動を支援している。現在、その多くの子どもたちの教育を支えて奨学金を出している。若いお母さんたちから自分たちの生活の状況、病気と薬、仕事や子どもたちの教育環境の差別など、つまり現実の話を伺う。私たちに会いに来た子どもの表情が私の目には悲しそうに映る。

そこを発って、山奥にある少数民族の村に出かけた。車 1 台だけしか通れない険しい山道を走って、目的地まであと 2 キロが残ったところで、皆、車から降りて、歩いて登らなければ、少数民族の村につけないといわれ、汗を流して、ゆっくりと小道を登り始めた。まだかと思って、時々上の様子を見ても人影が見つからない。そして、私の後ろから一緒に登っていた子供はニコニコしながら突然私の手をつかんだ。10 歳ぐらいの少女だった。私にできるベトナム語は限界があるので、彼女の年齢を聞くことだけしかできなかった。しかし、彼女はそれを問題にしなかった。黙ったままで私の手をつかみ、デゴボコの小道にある穴などの険しい場所を指でさしながら、そのまま 20 分も案内してくれた。後ろを見たところ、親は来ていなかった。なぜ少女が私をああい風風に案内してくれたのかが、私にはいまだにわからない。村に着いたら彼女は遊んでいた他の子どもたちの中に消えた。

ベトナム南部には Long Dien という少数

民族の地域があり、そこでカトリックのシスターたちが造った子どもの寮がある。105 人の子どもたちはそこで暮らしながら、昼間、公立学校に通っている。子どもたちは様々な民族の村から集まっている。ジャパ・ベトナムは長年の間そこの施設と付き合いがある。毎年そちらを訪ねていて、子どもたちは民謡、民族ダンス、若者に人気がある歌とダンスで、いつも私たちメンバーを迎えてくれる。しばらくたつてから、他の場所へ移らなければならなかった。そして、今年はまだ日本人の学生もベトナムツアーに加わったので、一緒に別れようとした時に子どもたちは彼女らを抱いて離そうとしなかった。

帰国後、ジャパ・ベトナムの事務局に、私宛ての手紙が届いた。「あなたと優しい日本人の仲間は、このあいだ、不幸なベトナム人の顔にスマイルをくれました。心から感謝いたします。ジャパ・ベトナムのメンバーによるしくお伝えください。」

ジャパ・ベトナムの若者の参画

平井 裕

ジャパ・ベトナムの活動は多くの方々の支援に支えられて現在まで続いてきている。しかし活動の中心に若い人が少ない。何故なのか、若い人の関心が少ないとも思えない。今年のツアーの目玉として、学生・若者への参加の働きかけを試みた。通常のツアーのホーチミン市周辺の部分に少し変化をつけて、学生の興味を引くようなプログラムで呼びかけた。これまでの支援先の訪問に加えて、今話題の日本語教育と実習制度の実態、大学生と

の交流と個人の生活、ホーチミン市の企業活動の状況、ホーチミン市の急激な興隆などを見て、触れてみるツアーを企画した。今年初めての試みで、参加者は 3 人と少なかったが、ホーチミン市を今までと違った側面で見ることが出来たと思う。また若い人が加わることで、支援先の子供たちとの交流も今までに無い密なものになり、お互いに楽しく有意義な時間を共有することができた。以下その経験について参加者に語ってもらう。

(1) ジャバ・ベトナムの支援先を訪問して考えたこと

李 智瑛

以前抱いていたベトナムに対する私のイメージは、フランスによる植民地化、米ソ冷戦に巻き込まれて分断され、凄惨な戦地となった悲しい歴史を持つ新興国、という漠然としたものだった。

今回のツアーでは、小学生の子供達や日本語同好会の学生、大学生などの若い人々と交流することができて、貴重な経験となった。特に子供たちの輝いた目や生き生きとした笑顔が印象的で、彼らの持つ希望や前向きさを感じた。

その一方で、かつての日本のような、貧弱な施設の小児がん病棟や大量のバイクによる大気汚染、工場地帯に赤く広がる汚染された河川など、ベトナムの抱える問題を直接目の当たりにする事もあった。ベトナムの企業が育つような支援も重要だが、それと同時に環境改善や、公衆衛生に対する教育も大切なのではないかと考えた。安価で便利なベトナム製品を日常的に使用している

私達にも、彼らの健康被害や環境汚染に対する責任の一端があるのではないかと感じた。

少数民族の子供達、エイズ患者の家族がいる子供達、エイズ患者の方々などの、社会的弱者に対するジャバ・ベトナムの支援の継続は今後も必要で、重要であることを痛感した。

私は環境学に興味があり、大学で専攻したいと考えている。将来、私自身もベトナムのために何かできることをしたいと思った。



(2) ベトナムの若者の現状と課題

市川 真太郎

私は企業でエンジニアとしてセンサ開発に携わっていますが、近年はセンサ単体ではなく、サービスも含めたソリューションを提供することが求められています。サービスはいかに真の「困りゴト」に訴求できるかという点が成功の鍵です。そこで私は、新興国の真の「困りゴト」を肌で感じるためこのツアーに参加しました。したがって東日クラブやHCMUTEで学生と対談し、次世代を担う彼らの実情を肌で感じたことは特別な体験になりました。対談の中で分かった彼らの「困りゴト」とは、周りに最先端の技術を学べる場が少ないということでした。学ぶ場が必要な理由として自分が勉強したものを故郷、家族に還元したいという強い思いがあるようで、自分の将来や夢について熱く語る姿が印象的でした。

今回のツアーでセンサに直接関連する「困りゴト」はありませんでした（あっても公には言えません）が、ベトナムの若者の現状と真の課題が少し見えてきました。我々は金銭やハード面の支援に注目しがちですが、教育に関連する人材交流も重要であると感じました。私も今回の体験をもとに自分自身でできる交流を探してみたいと思います。



ホーチミンの活動拠点について

櫻井 實

昨年秋以来ベトナムホーチミン市に活動拠点ができないか、調査の必要が議論されてきた。ホーチミン市に活動拠点を設ける意義は、どこにあるのか考えてみたい。

ジャパ・ベトナムの支援活動に、少し陰りが見えてきたのではないかな？

国内では東日本大震災以降、熊本・大阪・北海道等の地震、広島・北海道の土砂流災害、倉敷の河川氾濫等々、地震・大雨・台風と各地で自然災害が急増している現状があり、国内支援優先が当然のこととして理解ができる。

また、ここ数年ベトナムは力強く6%の経済発展を継続させ、都市部特にハノイ市・ホーチミン市周辺の近代化は目をみはるばかりに進んでいる。

また、ベトナム人の日本観光者も急増し、富裕層の拡大が現実となっている。

豊かになったベトナムにまだ援助が必要なのか、こう感じている方々もふえていると思う。このように我々の活動環境に逆風が吹いている事実がある。

加えて会を維持継続する若手が少なく、メンバーが思うように増えない。

このままでは、集まる資金がふえないという、デフレスパイラルのように、逆サイクルに落ち込むのではないかと危機感がある。

われわれの有意義な活動をさらに拡大発展させるために、どうすればいいのか。

この問題がホーチミン市活動拠点進出の原点と考えている。

2018年の支援先訪問ツアーの終了後、そのままホーチミン市に1か月のこり、ジャパ・ベトナムがホーチミン市を拠点として活動ができるかどうか調べてみた。

いろいろな伝手を頼りに、駐在日本人の方々・ベトナム人の方々にさらに、日系団体／企業・ベトナム企業を訪問し、ジャパ・ベトナム活動の

説明と参加を依頼して歩いた。結果は20名の方々に参加をいただくことになり、大変ありがたいと予想以上の結果となった。

ベトナムでは陽の当たる都市部と陽の当たらない地方との格差が、一段と大きく広がり、支援を必要とする先がまだまだたくさんある。

これからは日本の皆さんベトナムの皆さんの力を合わせ、支援を必要とするベトナムの人々に、少しでも陽が当たるように更に努力すべきと感じた。

ホーチミン市での活動には、この先許認可の問題他いろいろと課題が残されているが、一つ一つクリアーして、ジャパ・ベトナムの新たな展開を試みるべきと強く感じている。

高層ビルに囲まれつつある Nguyen Hue の通りを、サイゴン川岸近くまでソフトジョギングで往復、ベトナムの近代化の歩みを楽しみ感じながら、ふと同じ場面を見ているホーチミンさん（銅像）は、どのような思いなのかと……、やはり我々同様「困難な人々を助けたい」との思いだと確信している。

最後に今回ベトナムでジャパ・ベトナムに参加いただいた皆さんに、この場を借りて心より感謝申し上げます。



北部の支援先を訪問して

村山 良忠

北部での訪問先は、Bac Ninh 省の Tan Tri 村と、Bac Ninh 省の西隣の Thai Nguyen 省の Dai Tu 町、Yen Bai 省の Phinh Ho 村とターライン Ta Lanh 村の4か所であった。

Bac Ninh 省での支援は、HIV 患者の子弟の奨学金支援だが、HIV 患者家庭の支援に関連して2か所訪問した。Tan Tri 村では、HIV 患者が縫製などの職業訓練を通じて自立する活動をしているグループと、Dai Tu 町では HIV 患者家庭のグループ「ひまわり」の方たちとお会いした。「ひまわり」のリーダーの方たちは、山間に散在する HIV 患者家庭をまとめることの大変さを切々と語られ、心を打たれた。安藤さんの提案で、予定にはなかったが、「ひまわり」の活動支援としてジャパ・ベトナムから寄付をすることになった。



(「ひまわり」のメンバー)

Yen Bai 省では、昨年ジャパ・ベトナムが製茶設備に支援をした Phinh Ho 村にまず行った。製茶事業は順調で、教会組織を通じて各地に販売されているようだ。Nghia Lo に戻って、再び山に向かう、所狭しと薄い板を並べる林業の村を通り、峠を越える。切り出した岩石が並び村を通り、Ta Lanh 村に。車が入れないので、歩いて山道を登る。最後は急な赤土の坂を

息も絶え絶えに上り、広場にたどり着く。ここに、そのまた上流から川の水を引いて、各家庭に上水を供給しようという計画を支援する。村のリーダーたちは、図面を前に熱心に説明している。来年は、赤土の円錐台のようなこの土地で、蛇口から水が出るのを見られるのかと思うと興奮した。



(Ta Lanh 村の赤土円錐台広場
写真後ろの地面の向こうは深い崖)

Ha Noi に戻って、ベトナム人の支援団体と交流を持った。国際女性デー（3月8日）に開催する大会で募った募金で、毎年少数民族の地に学校を建設しているという。お会いしたリーダーの方たちの中で、省との交渉など実務面を担当していらっしゃる方が、少数民族の出身とお聞きして印象的だった。

3年ぶりに訪れた Tan Tri 村は、短い間にも変化が感じられた。依然として水田の広がる農業地域だが、家の建て替えがそこここに見られ、田んぼに飼われていたアヒルがいなくなり、畦に植えられていたパパイヤも消えていた。もしかすると、農家収入のあり方も変わってきているのかと想像させられた。Ta Lanh 村では、実は、歩き始めた地区の少数民族は Dao 族で、ジャパ・ベトナムが支援する少数民族は Hmong 族と違うらしい。縦の棲み分けはどのように生まれたのだろうか。

メコンデルタの支援先を訪問して

中野 孝文

豊穡なるメコンデルタで

メコンデルタ地区でジャバ・ベトナムが支援をしている先は現在4カ所あります。Soc Trang 省での生活支援、Hau Giang 省での教育支援、Ca Mau 省での生活・教育支援そして Kien Giang 省での生活・教育支援です。いずれも豊かなメコンデルタ地区での貧しい人々への支援です。

北部・中西部の山間部での支援は少数民族の貧困生活支援が中心で、ホーチミン市では HIV、麻薬・セックスワーカー・家庭内暴力・障害者への支援等の社会問題が中心です。

ここ南部メコンデルタ地区は北部・中西部の貧困、あるいは都市部の貧困とは成立ち・背景に差異があります。現地ですべて支援をしている人たちの話を伺うと、この地の貧困は開墾する土地を与えられ北部より南部に移住したが失敗し、この地域に移り住んだと言われます。

海に面している Ca Mau 省、Kien Giang 省は漁業、養殖業が主力です。この地に流れ着いた人々は、養殖業、水産加工業の会社で働く・海洋漁業に出る船の船員として働く、仕事が無いときは廻りの海岸・水路で貝を拾いエビの稚魚を獲り細々と生活を支えている。

内陸部の Hau Giang 省、Soc Trang 省では米作を主体とした農業、メコン河の流通・商業が主力です。何も無くして移り住んできた人々はこれらを支える業者の下請け日雇い仕事で生活を支えています。

支援を必要とする地を訪ねて

① Co Trang 村 Kien Giang 省を訪ねて

この地の Tri 神父が行っている貧しい家庭への支援に協力を始めたのは3年前の2016年です。ジャバ・ベトナムの今年の支援は3プロジェクト・合計30万円(家庭用貯水槽20基・11万円/小中高校生への奨学金18名・14万円/通学用自転車10台・5万円)です。

今回の訪問で一番印象に残ったのは子供達です。奨学金の授与で集まった子供達はみな明るく仲間同士で活発におしゃべりあり遊びあり。授与式では安藤さんの話に真剣に耳を傾け喜びに溢れていました。奨学金は続けることが使命であり、彼らを見て何としても続けると決意を新たに、奨学金をスタートさせて良かったと心より思いました。



(Co Trang 奨学金を授与されて)

もう一つ心に残ったのが水問題です。ここでは Tri 神父が豪州の援助団体の支援を受けて飲料水製造事業を始めました。昨年まで無かった公営の水道がこの地区まで延びてきてました。ベトナムの貧しい各地を回ると水問題は喫緊の課題で、ジャバ・ベトナムも支援を頼まれます。幸いにこの地域では行政の動きがあり今後良くなっていくことが期待されます。

② Phu Tan 市 Ca Mau 省を訪ねて

Cai Doi Vam 町 Phu Tan 市 Ca Mau 省で社会支援活動を続けている Dat 神父とお会いし今年の支援金をお渡ししました。今年の支援は通学用自転車25台・18万円です。子供達が集まり自転車の贈呈式が行われました。

Dat 神父との関係は長く2009年より支援を開始し今までに橋の建設、井戸掘り、通学用自転車、家の建設などの支援を実施しました。Dat 神父は幅広い社会福祉活動を行っていて同地区の行政機関とも協同してこの地区の弱者支援を続けています。

青沼 酉子 東京都
 阿部 節子 東京都
 イエズス会社会司牧センター
 東京都
 イエズス会神学院 東京都
 匿名 北海道
 逸見 裕一 埼玉県
 今井 健二 東京都
 カトリックイエズス会
 東京都
 加藤 尚子 神奈川県
 川越ベトナム人カトリック
 共同体 埼玉県
 河国 クアン
 Nguyen Thi Mai 神奈川県

小池 美恵子 東京都
 高野道郎メモリアル
 ジャパナム 東京都
 駒込 直美 京都府
 佐竹 道子 長野県
 澤田 紀子 千葉県
 島村 昌子 東京都
 武市 英雄 神奈川県
 武井 弘光 東京都
 武永 蘭 東京都
 中嶋 俊之 東京都
 中野 孝文 神奈川県
 中野 宇多子 神奈川県
 永吉 一衣 大分県
 根岸 寿 兵庫県

橋本 直樹 神奈川県
 林 裕美子 兵庫県
 Ha Thi Liet Oanh 神奈川県
 原 茂 千葉県
 原 悌二郎 東京都
 樋口 禮治 愛知県
 平井 裕 東京都
 堀 英彌 愛知県
 Khong Minh Trang 兵庫県
 村田 光司 沖縄県
 森 絵里咲 東京都
 大和ベトナム人カトリック
 共同体 神奈川県
 四谷ベトナム人カトリック
 共同体 東京都

2018年支援先ツアー報告会

を開催します！

参加無料

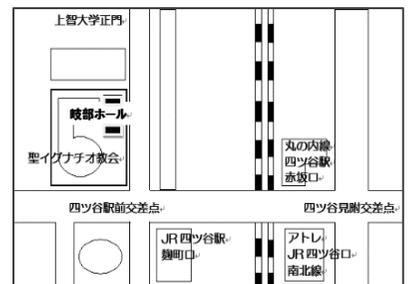
どなたでもご自由にご来場ください

ベトナム一弦琴 (Đàn Bầu) と横笛 (Sao) の生演奏もあります！

日時：11月17日(土) 14時～16時

場所：四ツ谷 岐部ホール 3階305号室

(四ツ谷駅下車徒歩3分 上智大学手前)



年間事業報告、ホーチミン拠点問題、写真や動画を使用したツアー報告、そしてベトナム民族楽器による生演奏を通してベトナムに触れてみませんか？



〈生演奏〉



後藤 富士雄 氏



Le Bao Ngoc 氏

ジャパ・ベトナムのボランティア活動に興味ある方もお気軽にご参加ください。お待ちしております！

◆◆◆会計報告◆◆◆

(2018年4月1日～2018年9月30日)

収支明細

(単位：円)

収入	一般寄付	1,105,742
	助成金	450,000
	利息	10
	小計	1,555,752
支出	支援金	2,365,885
	通信費	12,796
	活動費	201,019
	事務費	6,432
	小計	2,586,132
前期繰越金		1,888,795
当期収支		▲1,030,380
次期繰越金		858,415

●助成金(450,000円)

イエズス会神学院 100,000円
(Bac Ninh・HIV 家庭子供奨学金)
高野メモリアル 300,000円
(少数民族子供寮、聖ヨセフ小学校、
HIV 家庭子供教育 各 100,000円)
個人 40,000円
(聖ヨセフ小学校、HIV 家庭子供教育)
個人 10,000円
(少数民族、貧困家庭弱者の子供達へ)

●支援金(2,365,885円：含む助成金)

HIV 家庭子供奨学金 300,000円
HIV 家庭自立活動支援 35,885円
少数民族・給水施設建設 300,000円
HIV 家庭子供教育 200,000円
少数民族子ども寮 400,000円
HIV 無料診療所 100,000円
聖ヨセフ小学校 300,000円
通学用自転車 330,000円
奨学金・貯水槽・自転車 300,000円
少数民族、貧困家庭弱者の子供達 100,000円

JAPA VIETNAM をご支援ください

ジャパ・ベトナムの活動は皆さまからのご支援、ご寄付から成り立っています。

会員の皆さまには年間会費として 2,000円をいただくと共に、広く皆さまにベトナムでのプロジェクトの支援金および事業運営費として一般会費のご寄付をお願いしております。この活動が継続できますように皆さまの温かいご支援、ご寄付をお願いします。

なお事務費削減のため領収書は振込の半券を充ててもらっていますが、必要な方は、振込用紙の通信欄にその旨ご記載ください。

【ご送金は郵便振替で】

00100 - 8 - 118761

JAPA VIETNAM



【銀行をご利用の場合は】

三菱 UFJ 銀行 四谷三丁目支店

東京女子医大出張所

店番号 315 普通預金 3544236

JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

会報名『チャオ・ベトナム』について

「チャオ」(chào) とはベトナム語で「こんにちは」という意味です。『チャオ・ベトナム』というタイトルには、ベトナムの人たちと友情のネットワークを築いていきたいという、私たちの願いがこめられています。

ベトナムの未来にあなたの力を

ジャパ・ベトナム

(日本ベトナム民間支援グループ)

JAPA VIETNAM

(Japanese group of Private Assistance to VIETNAM)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-5-1

岐部ホール 4階

イエズス会社会司牧センター内



電話 03-5215-1844

FAX 03-5215-1845



e-mail:japavietnam2014@gmail.com

http://www.japa-vietnam.org/